

第1回 足立区地域経済活性化会議 第一部会

【議事要旨】

(1) 日時・場所

日時：平成29年8月8日（火）10時00分～12時00分

場所：足立区役所 南館12階

(2) 出席者

委員：阿高部会長、福田副部長、宇佐美部会員、小沢部会員、近藤部会員、
鈴木又右衛門部会員、本山部会員、小早川部会員、足立部会員

事務局：足立区：倉本就労支援課長、依田産業振興課長、山崎中小企業支援課長、島田
産業政策課長、池田係長、鈴木主査
富士通総研：高橋、松田

(3) 次第

- 計画の施策体系案および施策案について

(4) 配布資料

資料1 次第
資料2 座席表
資料3 次期 足立区地域経済活性化計画 章立て（案）
資料4 次期 足立区地域経済活性化計画 骨子
資料5 次期 足立区地域経済活性化計画 策定に向けた考え方
資料6 次期 足立区地域経済活性化計画 体系案
資料7 平成29年度第1回経済活性化会議 会議録
※参考資料 現行の足立区地域経済活性化基本計画（冊子）

(5) 議事要旨

【開会・挨拶】

島田課長から「平成 29 年度 第 1 回足立区経済活性化会議第一部会」開催に係る挨拶があった後、阿高部会長から挨拶があった。

次いで池田係長から資料説明があった後、個別の施策について、以下の通り意見交換が行われた。

【意見交換内容①】

阿高部会員：今ご説明のあった施策や個別事業について、新たな視点や、質問等があればお願いします。

鈴木部会員：起業・創業について言うと、起業家にとって想いはあってもお金の面がなかなか難しい。そのため、事業をスタートする際の支援に加え、継続的に事業が安定するような支援があれば良いと思う。また 1 年目は人件費がかさむため、創業後の支援も視野に入れた方法が必要だと思う。またシニアの起業は良いことだと思う。実際、年金だけで生活していくことが難しいシニアも多いと思うため、実情にマッチしている。なお学生については起業に対する意欲が少ないと思われるため、起業に関するカリキュラムもあって良いのでは。学生はアイデアもやる気も抜群にあるので、そうした力を活かしていければ良い。

近藤委員：後継者がいても、仕事が順調でない場合が多くあり、何をやって良いのか分からないのではないかと。起業に関する講習等、アドバイスを受ける機会が少なく、そうした体制の充実も必要。

阿高部会長：昼間の学生と夜間の学生は意識が違う。夜間の学生の方が、起業に対する意欲が高い印象。また私の学校ではインキュベーションマネージャーの協力もあり、起業意識を高める取組も行っているところである。起業に関する補助金について、区からコメントがあればお願いしたい。

山崎課長：創業プランコンテストにて、費用の二分の一、補助限度を 200 万とし、年々増加傾向にある。今後は地域課題を絞り込んでやっていきたいと考えている。なお融資については、金融機関からの融資に係る利子補給等を行っており、このあたりも拡大していきたいと考えている。

本山部会員：女性やシニアと記載があるが、女性の起業意識がそこまで高いかが疑問である。

阿高部会長：起業創業施設に比較的女性が多く入っていると聞いている。

山崎課長：現在起業に関する講習をしているところで入門編からステップ 2 に関しては半数が女性となっており、増加傾向にあると思う。なお中小企業白書でも起業したい女性が増加しているとの結果になっている。ただし特に女性に関しては起業のノウハウが不足していることが課題となっている。

福田部会員：足立区のオリジナリティとして防犯・防災を特出しするのは良いことだと思う

が、一方で創業時の融資等で困ることが多いという話もあり、企業のライフサイクルを踏まえたうえで、どのように支援していくかを検討していく必要がある。また、事業の発展と、起業創業が切り離されないようにすることが必要。

阿高部会長：細かいところだが、「福祉」という表現でなく、「福祉・介護」とセットで表現した方が良い。

小早川部会員：起業創業支援としてバックアップしていく面で、創業者のネットワークが重要だと思う。区内に優れた企業が多いなかで、新たに創業する方に対し、マッチングの機会を増やしていくことが重要。こうしたことによって、起業の成功率が上がるのでは。区内企業との連携を創業時点で行っていくことも重要。

山崎課長：交流等を含めて、何らかのアドバイスは重要だと思っている。マッチングに関してはマッチングクリエイターがいることに加え、支援施設等で出会う機会を提供しているところである。

小早川部会員：理想は5～10社の先輩経営者が成長を継続的に見守ることが必要。短期間見守るのではなく、常にアドバイスできるビジネスモデルがあれば望ましい。

依田課長：異業種グループに入っていただく等、今おっしゃっていただいたことも出来るかもしれない。

【意見交換内容②】

福田部会員：IoTやAI等については、興味が低かったが、区内にはそうしたことに先進的に取り組んでいる企業もあるので、波及させていくことが必要。大規模でなくても、まずモデルを作っていくということが重要だと思う。

小早川部会員：先進的なモデル企業を上手く引き上げて、勉強をさせていただく場があればなお良いと思う。

本山部会員：商工会議所ではドローンの研究会を定期的で開催しており、区外からの参加者も多かった。取組の認知度を上げるためにも、定期的で開催することも重要かと思う。

足立部会員：ビューティフルウィンドウ運動をしているが、平成18年から4年間、区は認知件数がワースト1であった。面積も広いせいもあり、犯罪が多い。平坦な道が多い足立区では、犯罪のなかでは自転車盗難が多く、犯罪の少ない街づくりが必要だと思う。また、ほとんどの商店街関係者を見ていると、魅力ある商店を作っていくというよりも、自分たちの代でお終いとなっている。その他ITの活用に関しても、取り組む商店は少ないため、情報発信の場も必要だと思う。

依田課長：POSデータが入ったころは騒がれていたが、区内事業者では、クレジットカードの導入があまり進んでおらず、個店レベルで費用負担が難しいのが現状。

小沢部会員：イノベーションを点と点を結び面で進めていくことが必要だと思うが、若い方を集めて異業種交流等も必要かと思う。

鈴木部会員：ICT や IoT の導入や活用に関しては中々ハードルが高く感じる。またこうした先進的な技術を使えなかったとして、どこまで問題なのかやや疑問。物流業を営んでおり、現業ではもちろんデジタル化が進んでいるが、閉鎖したネットワークでやっている。

【意見交換内容③】

近藤部会員：区内事業者の受発注の促進が必要かと思う。区外事業者への発注が多くなっており、商工会議所としては区内事業者へ発注できるように要請しているが、入札制度の改革も必要ではないか。

島田課長：区内受発注について進めていきたいと考えている。余談だが、新製品の開発に関連するところで小早川氏のトランプゲームをしながらビジネスを学べるという記事があったが、内容の具体化について教えていただきたい。

小早川部会員：基本的には問題解決のために、インフラの印刷業の業種を活かすことに加え、他の企業に対してヒアリングをし、マッチングクリエイターの方にも支援いただく等、様々な方の支援があり商品開発が実現した。また、自社の名前をどのように世間に広めることが出来るかを考えていたことがきっかけとなっている。したがってメディアに採りあげていただけることも、常に意識していた。なお工場男子については全ての新聞、14番組程にてご紹介いただいている。

本山部会員：例えば事業継承に関しても、新製品を多く開発されている有名な方が区内にも多数いらっしゃるが、どのような方法で市場に進出しているのか、知りたいと思う。そういった機会も必要ではないか。

鈴木部会員：同世代の経営者について、40代のメンバー等は他区に渡り横の連携は採れていると思うが、さらに上の世代との交流や連携も必要かと思う。ぜひそのような場があれば良いと思う。

本山部会員：事業承継が出来ているということは、区内での事業性が高いということになると思う。また異業種交流会については、既にグループが出来ており、若手がなかなか入りづらい状況もある。

依田課長：宇佐美委員がいらっしゃるが、例えば区内で息子が継ぐ農家があり、父親の農家を継ぐのは嫌だという話もある。また皆さんがおっしゃるような交流、サークルには新たに入りづらいため、例えば生涯教育等の分野でやっている通り、新しいサークルを作る等の方向性が考えられる。

小早川部会員：足立区では若手経営者ゼミというものをやっており、各会 20 人程度、トータルでは 200 人以上の参加者となっている。こうした会を活かし、仕組み作りから始めていき、若手のネットワーク構築もしていければと考えている。

福田部会員：同世代のネットワークについては、深める仕組みは既に出来ていると思う。また、今更異業種交流会ということと言われるかもしれないが、こうした交流と

いうのは根幹的な部分があり、やはり若手起業家ネットワークには重要かと思う。

阿高部会長：融資あっせんについて何かご意見はないか。

山崎課長：基本的に区が直接融資はしていない。金融機関からの借入に対する利子や保証料を補助しており、その他マル経融資利子補給等を行っている。またリーマンショック等の緊急時には、緊急経営資金として、臨機応変にやっていく予定。

【意見交換内容④】

足立部会員：個人商店が多いところでは、働き方等の問題に対処する方法が見つからない。

小沢部会員：雇用支援の充実については、良い会社に就職したい人と優秀な人材を採用したい企業のマッチングが必要だと思う。また展示会に学校の生徒を呼び、雇用するという方法もある。技術を身に付けないと就職が難しいというところで、城東センターでは若者ではなく、ある程度の年齢の方が職業訓練していると聞いている。これらの人を結び付ける展示会等の場が必要だと思う。

鈴木部会員：東京都における有効求人倍率は現在2倍を超えており、バブル期並みの数値となっている。ただ、ハローワーク足立では0.93倍程度となっており、求人数が少なくなっている。結局就労促進と雇用の安定は経済が回っていると自動的に良くなる部分かと思う。とはいえ、区での支援策は良くやっていると聞いていると思う。

近藤部会員：商工会議所でも企画しているが、区の支援は充実していると思う。

小早川部会員：インターンシップ支援には興味があり、区の学生が区内で就職することは重要だと思う。製造業の現場では採用が難しく、以前リクルートにお願いして求人を出したが、2人しか来ず、1人の採用も出来なかった。こうしたことを改善していくためにインターンシップ制度にて、学生等に現場を知ってもらうのが重要になってくるかと思う。工場男子にも記載のあった重国製作所では、息子が就職体験で工場の現場に行き、父親を継ぎたいと思ったとのことだった。こうした現場での体験が進めば良い。

宇佐美部会員：農業からは、後継者不足、担い手の高齢化が問題となっている。一方、高校生インターンシップもやっているが、その他小学校3年生も手伝いに来ることがあり、さらに中学校の職場体験でも、どのような土を使っているのか等、関心を持って来てくれることもあり、しっかりしている子どもが多い印象。そうした機会を充実させていきたい。

阿高部会長：職業体験は、小学校高学年からやっていると思う。中学生からでは少し遅いかもれない。

依田課長：教育委員会に確認すると、4年生から職業体験カリキュラムが入ってくるとのこと。また今年、初めての取組として、都立高校からボランティアで農業をし

たいと考えている学生が支援しに行く取組もある。こうした取組をもっと広げていければと考えている。

倉本課長：区内の高校によってもインターンシップに非常に積極的に取り組んでいるところもあり、高校ごとに差がある。

小早川部会員：話が逸れるが、今の若者は電話を取りたくないという人が多い。弊社でも新人がお客様の電話対応が嫌だという話もあった。

【意見交換内容⑤】

宇佐美部会員：5月29日、JA足立支店に常設の直売所が設置された。この直売所によって、若手のやる気が向上している。直売所があることによって、言い値で区民に買ってもらえるため、農家にとっては刺激になっている。

阿高部会長：農業に関しては従来への労働力を使わずに生産する等、ITの導入等のイノベーションは考えられないか。

宇佐美部会員：雨センサーや温度センサー等によって自動でカーテンが閉まる等の設備はあるが、野菜は生き物で繊細であるため、やはり人の手による勘で作業が必要などところがある。そうした管理はやはり自分でやっていく必要があると思う。

阿高部会長：藤沢市では農業ベンチャーが最新のセンサーや設備を導入し、成城石井に仕入れをしており、通常より2~3割増の値段で販売している。従業員も学卒が多く、彼らがセンサーを管理していると言っていた。

宇佐美部会員：おっしゃる通りだと思うが、やはり規模が違うため、足立区では難しいかもしれない。

依田課長：認定農業者制度というものがあり、その指定があると優遇されるものとなっている。その基準として、世帯で300万円の所得があるかどうかとなっている。農家だけでは相当の規模が必要だということになる。なお区内3,000㎡以上の農家は5~6件となっており、投資はなかなか農家にとってリスクが高いと思われる。

小早川部会員：足立区における都市型農業という部分に関して、都市で農家が生き残っていく必要性について教えていただきたい。

依田課長：荒川を南に行くと農地はなく、23区内には7つの農業委員会しかない。一部の地域ではビニールハウスでは寝袋で災害時に泊まれる等の防災機能もあり得る。食育や地産地消等の側面の機能もあるかと思う。

小早川部会員：農家の世帯所得があまり高くなく、さらに地価や人件費が高騰するなか、設備投資が難しい状況がある場合、その中でも成長していけるようにすることが課題になるかと思う。

依田課長：農家の1番の課題は、市場で値段が付くため、思った価格で売れないという部分がある。中間マージンを省くこと等にも区が支援していければとは考えてい

る。補助金をつぎ込むだけでなく、売上を保てる施策が必要だと思う。

小早川部会員：特殊な生産物を作ったりする取組はないのか。

依田課長：小松菜農家の皆さんであだち菜うどんを作る等の取組が出てきている。

宇佐美部会員：市場に出すと負けることが多いが、ジャガイモ等でも鮮度によって味がすごく異なってくる。なので、こうした新鮮なおいしさを提供するために、直売所が非常に機能すると思う。また直売所の売りとして、一般的なスーパーに置いていないものも多い。例えば、やわらかい大根の葉っぱ、間引き菜等。さらにこうしたものを加工品として利用すること等も考えていきたい。

依田課長：足立区には養蜂農家やアスパラに挑戦している農家等もあり、多種多様である。

本山部会員：農業にITを導入し働き方を変えることが出来れば良いと思う。また農産物のブランド化に向けた補助事業や働き方を改革するための補助事業等もあって良いと思った。

【意見交換内容⑥】

足立部会員：綾瀬駅前には住友不動産がマンションを造るということで、商業施設も入れて欲しいと要望しているが、区の方で何か把握しているか。

依田課長：解体工事に入ったとは聞いているが、具体的な進捗・状況について把握していない。

小沢部会員：綾瀬から北綾瀬にかけて公園がたくさんあるが、千代田線の直通によってマンションが新たに開発されつつあり、人も増えているため、文化的なワークショップ等が出来れば良いと思う。

鈴木部会員：千住には大学が多く立地しており、教育の街として位置づけられると思う。

小早川部会員：異業種フォーラムがあり、足立区では産業展示会等で使う場所が少ない印象がある。各種イベントが出来る施設があればありがたい。

阿高部会長：ホテルも必要かと思う。ちなみにこのエリアで農地が多いのはどの場所か。

宇佐美部会員：舎人方面に多い。環状七号線の内側にはほぼない。

池田係長から閉会の挨拶があり、閉会

以上